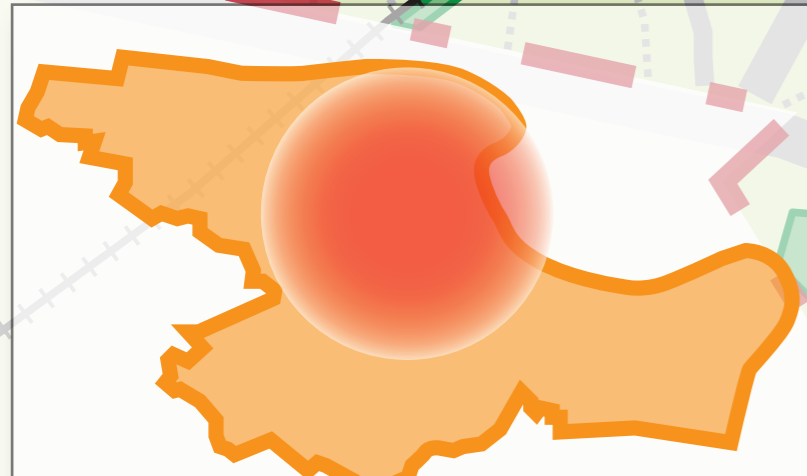


町屋・荒川地域 景観と防災マップ



町屋・荒川地域 概要

- ・蛇行する隅田川が北端、自然堤防の後背地として広がる低地が中心
- ・関東大震災後に市街地が急速に密集化するも、近年は再開発事業や密集事業、街路事業等によりまちの更新が加速化
- ・鉄道では東京メトロ千代田線、京成本線、都電荒川線の3路線が交差
- ・道路では、縦断路線としては尾竹橋通りと、横断路線は南から順に明治通り、都電通り（補助90号線）、旭電化通り

	幅の広い道路 (6m以上)
	幅の狭い道路 (6m未満)
	地域危険度 都内30位以内
	安全性が高い
	防災広場
	防災スポット
	景観・観光スポット
	バラ
	サクラ

町屋・荒川地域の魅力

①豊かな路地風景

景



- ▶ 表通りを演出する植木鉢や垣
- ▶ 街に深みを与え、歩くたびに異なる発見を提供
- ▶ 日々の手入れや掃除など、住民の美しい精神性が作る景観
- ▶ 寺社仏閣や自然条件ではなく、一軒一軒が作り上げる景観

②オープンスペースの分布

災 景

- ▶ 面では荒川自然公園
- ▶ 点としてはゆいの森あらかわやマークスタワー
- ▶ 線としては都電軌道敷や京成高架下など

③交通・商業の集積

景

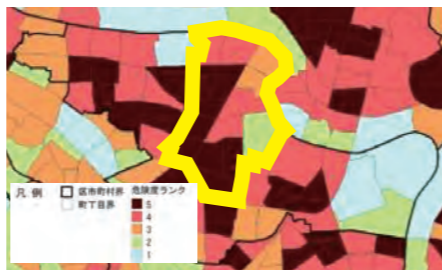
- ▶ 3路線利用可能な町屋駅
- ▶ 周辺に広がる区内最大の商業集積



町屋・荒川地域の課題

①物理的な災害時危険性

- ▶ 都内ワーストの災害時危険性集積 1位の町屋4をはじめ、荒川6、町屋2・3まで上位30位以内（全5,133町）
- ▶ 地区幹線道路内の道路の大半は幅員6m未満



災

②まちに謙虚

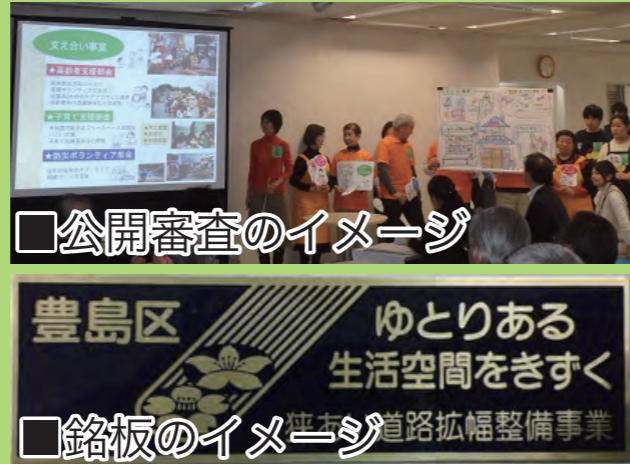
災 景

- ▶ ”おらがまち”への愛着よりは、災害時危険性というネガティブ要素がアイデンティティとなっている傾向
- ▶ 魅力に気づいてもらうことが課題

提案

課題を改善し、魅力をさらに向上させるために

路地風景コレクション



- ▶ 路地をはじめとした日常景観の美しさを讃えるコンテストを開催
- ▶ 入賞した路地空間は区製作のまちあるきマップへの記載や銘板の設置
- ▶ 区民他による投稿を、instagram部門と持ち込み写真部門に分けて選考、最終審査は公開プレゼン形式

「ゆいの森あらかわ」活用プロジェクト

■ 複合施設イメージパース



- ▶ 新複合施設「ゆいの森あらかわ」を区民コミュニティの拠点として徹底的に活用
- ▶ 「防災」「景観」等がテーマの学び合いの会を定期的開催し、変わりつつある荒川中央を盛り上げるコンテンツを提供
- ▶ 成熟後は近接する荒川自然公園との連携イベントの実施も視野

京成電鉄高架下活用プロジェクト



- ▶ 耐震補強の終了した京成本線の高架下活用のため、区民や事業者にサブリース
- ▶ 防災見本市などの開催を通じて防災意識を高めつつ、平時にもオープンカフェを開催することで賑わいをもたらす
- ▶ 隣接する藍染大通り（既に避難場所に指定）と併せて防災空間として刷り込む

(参考) 各施策による効果

	景 観	防 災
路地コレ	路地の再評価を通じて住民のプライドを鼓舞し、景観意識を高める	日常時から緊急時の路地活用方策の検討や、共助のための思いやりを醸成する
ゆいプロ	新しさも景観の一つとなることを意識させる	複合施設への人の動きを活用し、近接する「荒川自然公園」の認識を高める
高架下プロ	京成高架沿いの空間を親しみやすい景観に再生しつつ、回遊プロムナードを形成	防災空間としての藍染大通りの認識を高めつつ他の避難場所とのネットワーク化